

ほなみ通信

第89号

2020年2月29日

社会福祉法人

坂井輪会

発行元 〒950-2035 新潟県新潟市西区新通4734 TEL 025-269-1600 FAX 025-269-1571

祝 9周年 道場山穂波の里



新潟チェロアンサンブルの皆様による
チェロコンサート

入居者ご家族、ボランティアの皆様をご招待



ユニット(9~10名)でのお食事の様子



ある日の昼食はおでんバイキングでした

特養 道場山穂波の里

なじみの食べ物で祝う
”誕生日”

道場山穂波の里はこの2月で10年目を迎えます。1ユニット9、10名の少人数の単位で入居者の日常生活を支援しています。ユニットケアというと「時間がゆっくりと流れている」「家庭的な雰囲気」という感想をいただくことがありますが、ユニットケアの中ではお一人お一人との関わりも深くなり、なじみの関係となれるよう日々取り組んでいます。その一例を紹介させていただきます。

一昨年入居されたA様（女性）は人との繋がりが強く、外出や催しにも喜んで参加され、周りの方々との交流など、楽しみを持って過ごされていました。昨年徐々に食欲の低下がみられ体調も変化し、その後食事を摂ることが難しい状態となりました。「本人らしく過ごすためにできることはしてあげたい」というご家族の意向もあり、元々食することが好きだったA様に対して、嗜好品など好き

なものをいつでも食べたい時に提供できるよう配慮し、毎日を笑顔で過ごせるように援助を行いました。元々参加する予定だった健康まつりは、体調面で不安なところがありました。絶対行きたい！というご本人の強い希望もあり、その気持ちを大事にして参加することができました。そこにはご家族や知人の方々の協力や交流もありました。

このような関わりの中でA様にも変化がみられ「を食べたい」「〜に行きたい」など意欲的な言動も多くなり、再び食事を摂ることができるようになりました。こうして一緒に新年を迎えることができ、1月にご本人の誕生日がありました。ユニットの職員からも「せっかく元氣になられて、一緒に誕生日を迎えることができたのだから、Aさんのために何かできることはないか」という意見が出ました。そこでご本人に希望をお聞きすると「正月はビールが飲みたかったな」「せきとりの半身揚げが食べたいね」とのことでした。昔から何かあると窪田町のせきとりに行つて半身揚げを食べていた思い出をご本人やご家族からも伺っていました。できたてのものを用意するとな



ると西区の他店舗で購入し夕食でお祝いする方法はどうか、なじみの窪田町の店は営業時間から当日の対応は難しいが、前日に用意し昼食時という時間帯でたくさんの方に囲まれてお祝いする方法、そして何よりもなじみのあった店から用意してきたということが本人にとって一番喜んでいただけることになるのではないかと、ユニットの職員だけではなく他職種を含めて様々な方法を考えました。こうして迎えた誕生日には、昼食時になじみのあった窪田町のせきとりの半身揚げを用意して、同じユニットの入居者の方や職員を囲んでお祝いしました。「おいしいよ、本当に嬉しい。ありがとう」と大好きなビールを飲みながら半身揚げを食べて、皆さんと談笑され交流している姿がとても印象的でした。



「ただいま」と言われる方もおり、施設ではありますがご自分の家のように感じていただけているのかな、と私たちは嬉しく思います。いつまでもご本人らしい生活ができるように、入居者のご家族と一緒に「喜び」を共有しながら、これからもお一人一人に向き合つて援助していきたいと思っています。（相談員 貝瀬 芳博）

介護予防体操 ほなみ道場

祝400回記念
～昼食交流会～

9周年を迎えた道場山穂波の里4階にて、毎週水曜日の午前行われている介護予防体操ほなみ道場が、1月22日にちょうど400回を迎えました。当日は「祝400回記念昼食交流会」を企画し、総勢64名の方々が参加してくださいました。通常の体操はスペースの関係で2回に分けて行っていますので、前半の方と後半の方が顔を合わせるのには学習会などの機会に限られています。久しぶりの合同開催でゆっくりおしゃべりを楽しんでいただけたのではないのでしょうか。

400回といえますと、毎週通つて年間46、48回、あしかけ9年となります。実際、ほなみ道場は平成23年10月5日からスタートし現在に至っております。

第1回目の数名から始まり、参加された方がまた新しくお友達やご近所の方を誘ってくださるという、その積み重ねで今があり、参加されている皆さんからいろいろと助けていただきながら続けてく

ることができました。

最近になってようやく国が介護予防の予算を大幅に増やし、熱心に取り組んでいる自治体には財源を多く割り振るようなことも言われるようになりました。ほなみ道場はこのような話が出る何年も前からスタートしており、法人の理念のもと、この地に道場山穂波の里ができて良かったと、地域住民の皆さんから思っていただけのような取り組みを進めてきました。助成金や補助金に頼ることなく、食べたり飲んだり自由に使えるお金として、1回につき参加費100円をいただき運営費としています。当日のお弁当や飲み物、紅白まんじゅうなどは参加費のみを財源としまかなっている、経済的にも自立した集まりなのです。

参加費を自ら負担し、介護予防に熱心に取り組まれている高齢者の皆さんの努力に対し、何かしら喜んでいただけるものでお返しができるよう、またそれを励みに500回を目指して一緒に頑張ります。ましよう。（包括 梁取）



在宅生活を見守る 配食サービス

穂波の里配食事業は今年度で26年目を迎えました。同事業は、坂井輪中学校区の65歳以上の食事づくりが困難な高齢者世帯を対象に、新潟市西区委託事業と法人自主事業を合わせ毎週月～金曜日（祝日、年末年始を除く）に夕食を届けます。

弁当を届けた際に利用者の安否確認、加えて変わった様子がないか確認し、気になる様子が見られた際、担当しているケアマネジャーや地域包括支援センターに報告しています。

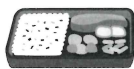
ある一人暮らしの利用者宅に県外ナンバーの車が駐車していたため、担当ケアマネに報告しました。ケアマネが本人に確認したところ、隣の方から来客の方の駐車する場所がないので駐車させてもらえないか、との相談を受けて駐車していたものでした。怪しい訪問業者の車でなく安心しましたが「そこまで気にとめてくださりありがたい」との声をいただきました。また、配達員との会話が気分転換になる、と弁当が届くのを楽しみに

にされている方もおられます。

弁当は玄関で手渡ししますが、利用者のなかには、手足の怪我や体調のすぐれない方、体力の低下した方もおられます。利用者から弁当をテーブルに置いて欲しい、と開けづらい蓋を開けて欲しい、とのご要望も聞かれます。それを受けて部屋まで弁当を届けにあげりセツトする、蓋が開けられるか見守りし必要に応じて介助するといった対応もしています。

現在利用者全体の約75%の方が、ヘルパーやデイサービス等の介護保険サービスを利用されています。配達時間帯と送迎の時間帯が重なるデイサービス、ショートステイの利用者は約55%おり、事前に送りの時間帯を確認し帰宅される頃に弁当が届けられるように配慮しています。

年中無休、昼食の配達、ソフト食や治療食等の配達を行っている民間の配食サービスには敵いませんが、1食400円で弁当を届け、今後も微力ながら利用者が安心して自宅で過ごせるよう、努めていきたいと思っています。（担当 武田）



圏域ケア会議

みんなで学ぼう
救急要請時における
情報共有ツールについて

令和2年1月21日に内野まちづくりセンターにて、新潟市地域包括支援センター赤塚・坂井輪合同で学習会を開きました。参加者は100人を超える数となり活発な意見交換が行われました。

開催のきっかけとなったのは、開業医、医療機関、調剤薬局、訪問看護、包括支援センター、ケアマネジャー、介護保険事業所、行政機関等、定期的に医療と介護の連携を深めるための取り組み「に



救急要請時用 医療情報シート

スムーズな搬送のため事前に記入し、保険証と合わせておいてください

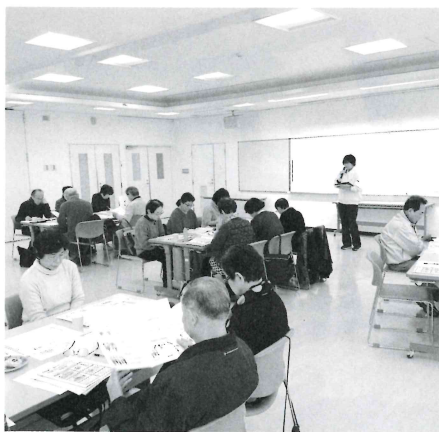
患者者基本情報		性別
ふりがな	氏名	男・女
生年月日	明治 大正 昭和 年 月 日 (歳)	
住 所	新潟市西区	
電話番号	自宅 (025) - 携帯 (0) -	
緊急時連絡先	ご関係(氏名)	電話番号
	① () () -	
	② () () -	
かかりつけ病院	病院または医院名	病名
	() ()	
	() ()	

支え合いのしくみづくり

地域のお茶の間交流会

in 坂井輪・五十嵐中学校区

1月31日に『地域のお茶の間交流会』を開催しました。



支え合いのしくみづくり会議において「西区全体での交流会は助成金の説明が中心となり、交流の時間が短すぎる」との意見があったことから開催を企画し、案内の方法なども検討しました。従来の案内方法では代表や事務担当にしか伝わらないことが多いというところで、配布用のチラシを作成し、実際に茶の間に参加されている方や世話役・ボランティアとし

て活動されている方にも届けていただくようお願いしたところ、42名の参加があり、その半数以上の方がこうした集まりにはじめて参加するという方でした。

当日は、お茶やお菓子を囲んで、「お茶の間愛」をテーマにそれぞれのお茶の間の自慢話、好きなところ、工夫していることなどを語り合いました。もちろん、お茶の間を続けていく中での悩みごとや困りごとはたくさんあり、課題ではあるのですが、今回は良いところを紹介しあうことで、笑顔の多い有意義な交流会になりました。

意見交換の会場には、区役所や社協 地域包括支援センターから、出前講座や福祉バスなどについて紹介し、お茶の間企画の一助となる情報を共有しました。

グループごとにまとめられた共有シートには、それぞれのお茶の間の「自慢のタネ」が満載となりました。例えば「参加している方からの情報でいろいろな周知、お茶の間を盛り上げるアイディアを見出せる」「少人数でも参加している人を大事にすることで広がっていく」「人とのつながりができ、見守りにも役立つ」というなど、どのグループも記載用シートを追加するほどたくさんの意見が出て

いました。また、これからこんなことができるというアイデアもたくさん出されています。共有シートに書き出された「自慢のタネ」は、整理してこれから活動のヒントになるよう皆さんにお配りする予定です。

交流会を開催してみても、地域の集まりというのは自然な助け合い

面の対応について互いの経験を共有し、その後にどんな情報があれば救急要請時に困らないか、より良い情報共有シートについて話し合いました。普段は話す機会のない事業所同士の方々が情報共有する機会ができ、とても良かったとの感想がありました。「自分の担当の方がきりんキットを持っているか確認します。なければ自治会に聞いてみようかな」「長期間利用者の情報が更新されていないかった。定期的な更新が必要」と参加者からはそれぞれの気づきと次の行動に向けて意識の変化がありました。

今後、新潟市では新たな救急医療連携シートの作成・活用を予定しています。新たな取り組みも必要かもしれませんが、既存のシートを支援者が理解し、地域住民に



も見守りにつながっているのだということをあらためて感じました。参加している方、担い手として活躍されている方の笑顔がとても頼もしく、これからも皆さんとともに地域での支え合いのしくみづくりを進めていきたいと思いました。（支え合いのしくみづくり推進員 鈴木 由里）

も周知し、きちんと活用されていることの方が大切であると感じています。これからも地道ではありますが、地域住民の皆様が安心して療養生活を送ることができるよう「にしく赤・坂ネット」の取り組みをさらに進めていきたいと思っています。（主任ケアマネ 田中）

ケアハウス穂波の里 新年会



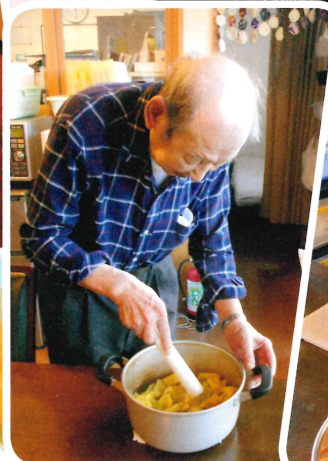
ケアハウス内に設置された穂波神社



迎春 令和2年



デイサービスセンター穂波の里の
穂波神社



お正月料理の準備で大忙し

ありがとうございます
宇治直樹様より
金百万円
ご寄付いただきました